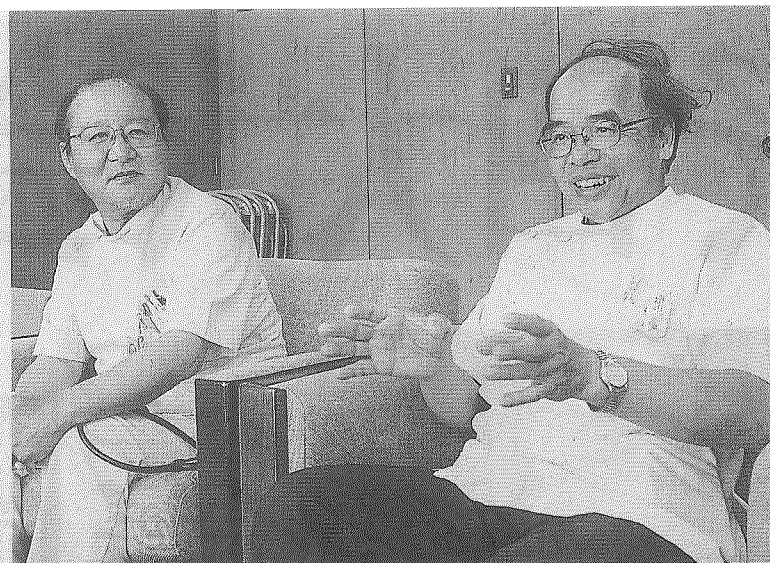


台湾出身の医師着任

専門は循環器内科
地域医療貢献に意欲



谷浦博之病院長（左）とともに、地域医療への思いを語る呉得進医師—島根県吉賀町六日市、六日市病院

島根県吉賀町六日市の六日市病院（谷浦博之病院長）に、台湾出身の呉得進医師（64）が着任した。日本の病院で勤務経験があり、日本語も堪能。専門は循環器内科で、心臓病や、それに起因する高血圧、糖尿病などに悩む高齢者が多い地域医療への貢献に意欲を見せている。

台湾南部にある嘉義市出身の呉医師は、1976年に台湾台北医大を卒業後、79年に京都大医学部の研究生になり、日本の医師免許と医学博士号を取得した。89年まで京都市、静岡、福井両県の病院に勤務し、帰国後は台湾中山医大付属病院で副教授、心臓内科主任医師を務めた。退職後は患者とより丁寧

火曜日午前の外来を担い、老人保健施設の高齢者10人の担当医としても奮闘。台湾とは異なる電子カルテの入力方法や薬品名を覚えながら、心電図、超音波検査をこなし、積極的に若手医師へ助言している。病床数110の同病院はこれまで常勤医が6人だった。町内は高齢化が進み、循環器疾患は疾病の中でも最も多いという。谷浦病院長は「臨床経験も豊富で、地域医療を助けてくれる。とても心強い」と期待し、呉医師は「これまで培ってきた力を精いっぱい発揮したい」と流ちょうな日本語で語った。

厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師調査」によると、2012年12月末段階で、島根県内の医療機関に勤務する外国人医師は3人。